

第 11 回研究会 報告

○日時：2013 年 1 月 23 日（水）

○参加者：弓野先生，塩田先生，山本さん，山口さん，酒井（報告者）

○報告：

第 11 回研究会では，小学校の理科における創造性の内容を検討した。理科教育においては，児童自身に実験を考えさせるという視点から創造性教育の手法を検討した。以下にその他に，検討した際のメモを挙げる。次回は，小学校社会科について，創造性を伸ばすためのポイントを検討を行っていく。

○第 11 回創造性研究会メモ

- ・理科における創造性のポイントは研究者的視点に立つことである。研究は疑問から始まる。教師は児童生徒が疑問を出せるように、問いかける必要がある。たとえば、大気圧の授業では、「空気には重さがあるかな?」「もしあるとすればどのようにそれを測定する?」のような問いかけである。
- ・理科について実験的な内容について方法を与えないことが重要である。
- ・理科の評価と創造性の評価の折り合いの付け方を検討していくことが重要である。
- ・児童自身で仮説が立てられるかどうかを見る。
- ・落とし所を疑問のまま終わらせることが必要である。
- ・問いに対して答えがあると思うと問いを立てる能力が欠如する。そのため、答えのない問いに対して、答えを導く力を探求することが重要である。
- ・理科教育における問いの生成法は仮説とセットで行うことで効果的になることが考えられる。